

# 平成21年度事業報告書

## 1. 総会

### 第54回通常総会

平成21年6月24日(木)於：石川県地場産業振興センター

#### 議事

- 第1号議案 平成20年度事業報告書、貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書、収支補正予算(案)、収支計算書について
- 第2号議案 平成21年度事業計画書(案)及び収支予算(案)について
- 第3号議案 平成21年度賦課金及び徴収方法について
- 第4号議案 平成21年度借入最高限度額について
- 第5号議案 役員の改選について

## 2. 役員会

### 第1回役員会

平成21年6月24日(木)於：石川県地場産業振興センター

#### 議事

- (1)第54回通常総会提出議案について
- (2)業務方法書、実施要領の一部改正について

### 第2回役員会

平成22年3月29日(月)於：石川県地場産業振興センター

#### 議事

- (1)平成21年度新規事業について
- (2)平成21年度収支補正予算(案)について
- (3)平成22年度暫定予算(案)について
- (4)その他会長一任事項等について

## 3. 監事監査

平成21年6月15日(月)於：石川県地場産業振興センター

## 経営指導事業

### 1. 農業競争力強化対策事業(優良繁殖雌牛更新促進事業)

肉用牛の資質向上を図り、肉用牛の生産基盤を強化するため、低能力の繁殖雌牛を淘汰した肉用牛繁殖経営に対して、優良繁殖雌牛の購入費用の一部助成を行うことにより、繁殖経営の安定を図った。

### 2. 畜産生産性向上促進総合対策事業

配合飼料価格の上昇に対応して家畜飼養、飼料給与等の技術改善、生産方式の転換等、家畜の生産性向上を図るため、相談窓口の設置、地域勉強会の実施、先行事例の調査・分析等を行い、畜産生産性の向上を図った。

### 3．地域エコフィード利用体制確立支援事業

配合飼料価格の高騰により畜産経営が厳しい状況に置かれているので、国内粗飼料生産力の強化と食品残渣など未利用資源の飼料化を図り、国際環境に対応できる畜産の生産構造の確立を図った。

### 4．肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業

肉用牛生産基盤の安定のため、優良な繁殖雌牛の増頭推進、酪農経営を利用した受精卵移植の推進、肉用牛生産集団へのヘルパー活動等の支援を実施した。

### 5．地域畜産支援指導等体制強化事業

畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制を強化すると共に、地域畜産に対する理解増進を推進するため、地域団体等と連携協調体制の強化を図った。また、地域におけるブランド化を推進し消費拡大事業を実施した。

### 6．畜産経営技術特別指導推進事業

本県における畜産の指導団体として指導体制の強化を図ると共に、畜産経営診断事業を始め、各種畜産指導事業を効果的かつ協力的に推進することで、生産性の高い畜産経営の健全な発展と農業所得の向上を図った。

### 7．畜産経営技術特別指導事業

畜産経営の健全な発展を図るため、経営診断による助言指導を実施すると共に、経営者の育成強化並びに畜産指導員の指導能力の向上を図った。

#### 1) 畜産コンタクト団員の編成と畜産指導員の設置

#### 2) 畜産経営技術支援指導

改善指導 7 事例、経営管理指導 2 事例、生産技術指導 2 事例、フォローアップ指導 8 事例、合計 19 事例

#### 3) 畜産経営関係情報の整備

各種畜産情報の DB 化を図るとともに、一般消費者の畜産に対する理解と地産地消の普及推進を図った。また、広報誌「畜産いしかわ」を年 2 回発刊し、全畜産農家や畜産関係機関、関係団体等へ配布した。

### 8．畜産物生産性向上対策事業

県内における黒毛和種の繁殖能力データを収集分析し、その分析に基づいて助言指導を行うと共に、育種化データと枝肉成績により、優れた肉質の能登牛生産を推進した。

調査指導戸数及び頭数 49 戸、517 頭 基礎雌牛選定頭数 47 頭

### 9．畜産生産基盤育成強化対策推進事業

経営支援による優秀な事例の、具体的な経営改善内容と成果等を全国的に取りまとめるため、県内における調査事例の実態を調査、把握すると共に、県内農家の指導等に活用した。

### 10．畜産特別資金指導事業

畜産を巡る内外の厳しい情勢に対応するため、負債残高の多い畜産特別資金借受者に対する指導を実施した。

濃密指導 2 事例、一般指導 3 事例、その他会議の開催等

#### 11. 畜産関係団体調整機能強化事業

生産者への総合的な支援体制を構築するため、畜産関係団体の連絡調整等を実施し、畜産経営の安定的発展と地方競馬の振興を図った。

#### 12. 改良増殖技術実態調査事業

家畜の改良増殖と的確な畜産関係施策の推進を図るため、県内畜産の状況等を実態調査した。

#### 13. 国産食肉需要構造改善対策事業(産地交流会等理解醸成活動事業)

国産食肉の機能・栄養面や安全性に関する消費者の誤解、不安を払拭するため、産地交流会へ出展し、情報の提供や産地の取り組み等への理解推進を図った。

#### 14. 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

(財)畜産近代化リース協会が行う貸付機械施設の確認及び管理状況について調査し、貸付機械施設の適正利用について技術指導を実施した。

#### 15. 地域畜産ふれあい体験交流推進事業

畜産の生産現場や畜産の果たしている役割等について、消費者や児童生徒の理解を深めるため、地域の教育機関や関係団体と連携し、畜産ふれあい体験活動や、県産畜産物を利用した料理実習等をとおして、情報提供等を推進した。

#### 16. 畜産活動業務

1) 畜産共進会の協賛並びに会長賞授与 2件、5点

2) 畜産情報の提供、月刊畜産マガジン誌等の斡旋

3) 石川県養鶏協会、石川県肉用牛協会、石川県養豚協会、石川県馬事畜産振興協議会、石川県家畜人工授精師会、全国和牛登録協会石川県支部の事務受託を実施した。

### 家畜衛生事業

#### 1. 特定疾病自衛防疫推進事業

(単位：頭)

事業名	計画頭羽数	実施頭羽数	実施率(%)
牛伝染性鼻気管炎発生予防	1,100	1,220	110.9
アカバネ病発生予防	1,900	1,949	102.6
牛5種混合(IBR、BVD・MD、PI、AD、RS)発生予防	600	529	88.2
牛ヘモウィルス・ソムナス感染症発生予防	350	341	97.4
牛6種混合(IBR、BVD・MDI、PI、RS、AD)発生予防	0	181	181.0

#### 2. 家畜生産農場清浄化支援対策事業

ヨーネ病、吸血昆虫媒介疾病の発生・流行防止対策並びにワクチン接種事業を推進することによって家畜の損耗防止を図り、もって畜産の健全な発展に努めた。

(1)重要伝染病の発生・流行の防止事業

接種計画策定会議	1回	委員 23名
アカバネ病ワクチン接種		1,949頭
牛伝染性鼻気管炎ワクチン接種		1,930頭

(2)予防注射事故対策事業

協会が実施した特定疾病自衛防疫推進事業で発生した事故に対し、予防注射事故対策事業実施要領に基づき見舞金を交付するものであるが、該当がなかった。

(3)その他事業の推進

事業推進会議	1回	委員 23名
--------	----	--------

3.家畜防疫互助基金造成等支援事業

畜産経営の安定を図るため、万一、海外悪性伝染病が発生した場合、飼養する豚及び牛の自主とう汰に伴う損失を生産者等が互助補償し、家畜防疫対策の実施基盤の強化に努めた。

(1)家畜防疫互助等推進事業

事業推進会議	1回	委員 13名
--------	----	--------

(2)家畜防疫互助事業

契約者数	養豚経営	17戸	37,088頭
	乳用及び肉用牛経営	119戸	6,935頭

4.高病原性鳥インフルエンザ防疫強化緊急対策事業

推進会議並びに検討会を開催し、鳥インフルエンザに関する知識の普及啓発のため、最新の知見を網羅したテキストにより、周知を図り防疫水準の向上に努めた。

(1)地域推進会議	1回	委員 10名
(2)検討会の開催	1回	67名

5.死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業

死亡牛の円滑な収集、輸送、処理等の取り組み、BSE検査の円滑な実施を推進するための事業を実施し、良好な家畜衛生及び環境の維持に努めた。

(1)協議会の開催	1回	委員 23名
(2)補助頭数		
死亡牛処理頭数		232頭
BSE検査頭数(24ヶ月以上対象)		232頭
輸送頭数		32頭

6.馬飼養衛生管理特別対策事業

馬飼養者および関係団体等の組織化を図るとともに、研修会等をとおして国内で発生した、馬インフルエンザに対する防疫対策の徹底を中心とした馬衛生知識の向上に努めた。

(1)事業推進会議の開催	1回	委員 12名
(2)地域馬防疫講習会	1回	20名

7.馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業

乗用馬等の馬インフルエンザのワクチン接種を徹底し、当該疾病の発生を低減化することにより、疾病発生により生じる経済的損失の防止を図った。

## ワクチン接種頭数

乗用馬

37頭

小格馬等

5頭

## 8. 衛指協事業強化事業

予防注射事業を担う指定獣医師の高齢化に伴い、新規の指定獣医師確保に向けた調査及び防疫水準の向上対策に努めた。

## 家畜改良事業

### 1. 家畜改良推進事業

家畜の改良増殖を効果的に推進するため、家畜人工授精用凍結精液等の保管用液体窒素ガスの円滑な供給を行い、家畜改良団体の組織運営の合理化や登録事業の推進を行なった。

また、家畜改良普及情報の提供、家畜改良事業団等国内外の優良種雄牛の凍結精液・受精卵血統能力資料や、各地の共進会・市場成績を、県内の家畜人工授精師会員並びに畜産農家へ配布した。

### 2. 肉用牛産肉能力平準化促進事業

県家畜人工授精師会の会員及び肉用牛繁殖農家の理解と協力を得て、調整交配候補種雄牛8頭を雌牛24頭に交配し、内20頭(受胎率83%)について受胎確認した。また、20年度候補種雄牛に係る調査牛については、雄牛8頭、雌牛7頭の生産があり、4月より順次出荷し検定を実施した。

### 3. 精液等供給事業

家畜改良事業団等の優秀種雄牛より、特に、本県家畜改良に適する種雄牛を選定し、その利用を中心に家畜改良の推進を図りつつ、体内外受精卵(肉用牛)移植による乳用経産牛の活用を通じて肉用資源の確保に努めた。

更に、肉用牛産肉能力平準化促進事業による、優良種雄精液(優先配布)の確保にも努めた。

#### 精液等取り扱い本数

(1) 乳用牛 3,948本

(2) 肉用牛 3,744本 内受精卵 795本

合計 7,692本

(3) 液化窒素ガス供給 12,050リットル

## 価格対策事業

### 1. 肉用牛肥育経営安定対策事業

近年における肉用牛肥育経営の取り巻く状況に鑑み、枝肉価格の変動等（家族労働費が基準から下回った場合、その8割）に対して助成することにより、肉用牛肥育経営の安定と県下の肉用牛振興を図った。

補てん頭数及び補てん額 (単位：円)

補てん品種	21年1～3月	21年4～6月	21年7～9月	21年10～12月	計
肉専用種	104(11) 6,188,000	119(13) 3,236,800	125(13) 7,437,500	135(11) 8,032,500	483(48) 24,894,800
交雑種	49(7) 1,617,000	38(7) 1,254,000	58(8) 1,914,000	80(9) 2,640,000	225(31) 7,425,000
乳用種	96(6) 2,179,200	80(6) 1,816,000	97(7) 2,201,900	88(6) 1,997,600	361(25) 8,194,700
計	249(24) 9,984,200	237(26) 6,306,800	280(28) 11,553,400	303(26) 12,670,100	1,069(104) 40,514,500

上段は頭数（延べ人）、下段は補てん金額

### 2. 肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業

肥育牛1頭当たりの四半期平均粗収益が、肥育牛1頭当たりの基準家族労働費を除く生産費を下回った場合に、その下回った額の6割以内を補てんすることにより、県下の肉用牛振興を図った。

補てん頭数及び補てん額 (単位：円)

補てん品種	21年1～3月	21年4～6月	21年7～9月	21年10～12月	計
肉専用種	104(11) 3,369,600	119(13) 5,176,500	125(13) 6,700,000	135(11) 3,699,000	483(48) 18,945,100
交雑種	49(7) 2,704,800	38(7) 1,546,600	58(8) 3,352,400	80(9) 4,264,000	225(31) 11,867,800
乳用種	96(6) 1,132,800	80(6) 1,176,000	97(7) 2,706,300	88(6) 1,716,000	361(25) 6,731,100
計	249(24) 7,207,200	237(26) 7,899,100	280(28) 12,758,700	303(26) 9,679,000	1,069(104) 37,544,000

上段は頭数（延べ人）、下段は補てん金額

### 3. 肥育牛経営緊急支援事業

生産性の向上又は飼料自給率の向上等の取組に対しステップ奨励金（出荷牛1頭当たり10,000円）を交付し、加え環境対策の強化等の取組に対しアップ奨励金（出荷牛1頭当たり7,000円）を交付し、肉用牛生産基盤の拡大と良質な牛肉の安定供給を促進することにより、肉用牛肥育経営の安定を図った。

なお、21年1月～3月までは経営奨励金として1頭当たり5,000円を交付した。

補てん頭数と補てん額 (単位：円)

補てん品種	21年1～3月	計
経営奨励金	175(24)	175(24)
	875,000	875,000

(単位：円)

補てん品種	21年4～6月	21年7～9月	21年10～12月	計
ステップ奨励金	252(21)	277(21)	357(23)	886(65)
	2,520,000	2,770,000	3,570,000	8,860,000
アップ奨励金	224(15)	240(15)	286(15)	750(45)
	1,568,000	1,680,000	2,002,000	5,250,000
計	476(36)	517(36)	643(38)	1,636(110)
	4,088,000	4,450,000	5,572,000	14,110,000

上段は延べ頭数(延べ人)、下段は補てん金額

4. 肉用子牛生産者補給金制度事業

肉用子牛の価格が低落し保証基準価格を下回った場合、生産者補給金を交付して、肉用子牛生産の安定等を図ることが目的で、平成21年1月から12月の肉用子牛平均売買価格については、乳用種が年間を通して保証基準価格を下回り、下記のとおり補てんした。

補てん頭数と補てん額

(単位：円)

補てん品種	21年1～3月	21年4～6月	21年7～9月	21年10～12月	計
肉専用種	-	-	-	-	-
交雑種	-	-	-	-	-
乳用種	50(5)	40(5)	56(5)	62(4)	208(19)
	1,170,000	1,148,000	1,775,200	2,146,440	6,239,640
計	50(5)	40(5)	56(5)	62(4)	208(19)
	1,170,000	1,148,000	1,775,200	2,146,440	6,239,640

上段は延べ頭数(延べ人)、下段は補てん金額

5. 肉用子牛資質向上緊急支援事業

肉用牛繁殖経営における子牛価格の急激な低下に対して、子牛の資質向上や意欲的な飼養管理の改善による、繁殖性の向上に取り組む生産者に対して支援交付金を交付し、県下の肉用牛振興を図った。

支援交付金額

(単位：円)

区分	頭数	金額
20年度市場対象支援交付金	19	470,000
21年度市場対象支援交付金	61	2,080,000
計	80	2,550,000

6．肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業

全国統一電算事務処理システムの活用により、業務の充実と契約生産者、及び事務委託先との業務委託の適正な実施に努めた。また、事務委託先及び契約生産者を対象に補給金制度事務手続等の調査指導を行い、制度の適正化に努めた。

7．指定協会運営体制支援事業

補給金制度を適正かつ円滑に推進するため、農畜産業振興機構の補助を受け協会の運営体制強化を図った。

8．子牛生産拡大奨励事業

肉専用種繁殖経営における子牛生産拡大意欲の向上を図ることにより、繁殖雌牛頭数の維持、拡大を推進した。

9．肉豚価格差補てん事業

豚肉価格の標準取引価格が地域保証価格を下回った場合に、肉豚の安定供給と地域の養豚経営の安定を図るため補てん金を交付し、養豚経営の安定と振興を図った。平成21年度は6月以外全ての月で地域保証価格を下回り、12月で基金が枯渇した。

契約生産者は14名、加入頭数は39,924頭で、下記のとおり補てんした。

補てん金総額

(単位：円)

補てん年月	21年4～6月	21年7～9月	21年10～12月	22年1月～3月	計
計	15,047,258	31,155,915	21,187,769	0	67,390,942

10．養豚経営緊急支援追加対策事業

肉豚価格差補てん事業を補完する事業で、平成22年1月から3月に出荷した豚を対象とし、肉豚価格が440円/kgを下回った場合に、その差額の1/2相当額を補てんすることで、養豚経営の安定と振興を図った。

補てん金総額 7,820,120円

その他の事業

1．石川県馬事畜産振興協議会

畜産物の普及拡大を図るため、金沢競馬場において畜産物の無償配布等を実施した。

- ・畜産フェア 平成21年9月22日

主な内容

1,000名の方に対して勝馬投票券を利用した抽選会による畜産物等の無償配布と畜産物の試飲試食及び体験乗馬等を実施した。

- ・冠レースの開催

平成21年9月22日 第7回オ・ムス°リトカ°北陸4県畜産会長賞

- ・その他

平成21年12月13日、平成22年1月2日

金沢競馬場で畜産物等の無償配布を実施した。